



THE
LANDMARK
TOWER
YOKOHAMA



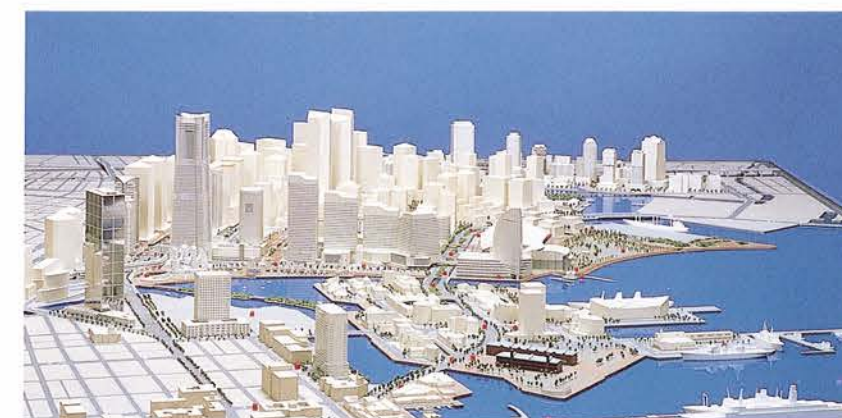
横浜新都心を創造する 壮大なプロジェクト、みなとみらい21。

国際交流と高度情報社会の拠点、
 自然と歴史を活かした都市像を
 めざし、開発が進められています。
 横浜は世界に開かれた人間性豊かな
 都市をめざし、総合計画「よこはま21世紀
 プラン」を推進。みなとみらい21は、その総合
 計画の中心的事業で、日本の都市開発
 史に一つの時代を築く壮大なプロジェクトで
 す。その目的は、次の3つに集約されます。

- ①横浜の自立性の強化
- ②横浜港の港湾機能の質的転換
- ③首都圏の業務機能の分担

みなとみらい21は1859年の開港以来、横
 浜の都心部として発展してきた関内・伊勢
 佐木町地区と、戦後急速に発展してきた
 横浜駅周辺地区、この両地区に囲まれた
 約186ha(既存土地110ha/埋立地76ha)
 の広大な臨海部に、国際性をテーマとする
 業務、文化、商業、コンベンションなどの多
 彩な都心機能を集積させ、就業人口19万
 人、居住人口1万人という21世紀の新都
 心を創出するプロジェクトであると同時に首
 都圏の均衡ある発展をめざした国の業務
 核都市構想実現の一翼を担うナショナル
 プロジェクトです。さらに市民が憩い、親しめ
 るウォーターフロント空間を創出し、従来、
 物流機能中心だった港湾機能からの質
 的転換も図ります。その街づくりは、次の3つ
 の都市像をもって進められています。

- ①24時間活動する国際文化都市
 開港以来、横浜が培ってきた国際性を活
 かし、世界各地の動きに常時対応する24時
 間活動型の都市を形成します。
- ②21世紀の情報都市
 高度情報社会に対応した情報通信ネット
 ワークを都市構造の基盤とし、世界と連動
 した情報都市を形成します。



③水と緑と歴史に囲まれた人間環境都市
 石づりドックの復元や水辺のプロムナード
 など、歴史や自然の魅力あふれる人間環
 境としての都市を形成します。
 これら都市像を具現化するために、みなとみ
 らい21では、公共セクター、民間セクター、
 第三セクターが一体となり、街づくりの調
 和を第一に基本協定を定め、開発を推進
 しています。

交通アクセス図



みなとみらい21事業の経緯

- 昭和40(1965)年2月/横浜市が「6大事業」の
 一つとして「都心部強化事業」を発表。
- 昭和53(1978)年11月/「横浜市都心臨海部
 総合整備計画調査委員会」(八十島義之助委員
 長)発足。
- 昭和54(1979)年12月/基本構想を報告。
- 昭和55(1980)年3月/三菱重工業横浜造船
 所の移転決定。
- 昭和56(1981)年7月/横浜市「都心臨海部
 総合整備基本計画(中間案)」発表。
- 同年10月/計画及び事業の名称を「みなとみ
 らい21」に決定。
- 昭和58(1983)年11月/みなとみらい21事業起
 工式。
 埋立事業、土地区画整理事業等による基盤整
 備を開始。
- 昭和63(1988)年7月/みなとみらい21街づくり
 基本協定締結。
- 平成元(1989)年3月/横浜博覧会開幕(10月
 閉幕)。
- 同年11月/横浜美術館正式オープン。
- 平成2(1990)年3月/ランドマークタワー着工。
- 同年11月/24街区開発提案競技で「T・R・Y90
 グループ」(23社)が当選。
- 平成3(1991)年7月/横浜国際平和会議場(パ
 シフィコ横浜)竣工。
- 平成5(1993)年7月/ランドマークタワー竣工。
- 同年9月/横浜銀行本店オープン。
- 平成6(1994)年4月/国立横浜国際会議場オー
 プン。
- 同年6月/三菱重工横浜ビルオープン。
- 平成8(1996)1月/けいゆう病院オープン。

みなとみらい21整備スケジュール





みなとみらい21の 先導的な開発ゾーン、25街区。

日本一高いタワー棟をシンボルに 一つの街を形成します。

25街区はみなとみらい21地区の先導的な開発ゾーンにあり、また民間最初の大規模開発街区であることから、その開発は地区全体のシンボルプロジェクトとしての役割を担っています。

計画の立案にあたっては、以下の3つを基本骨格としています。

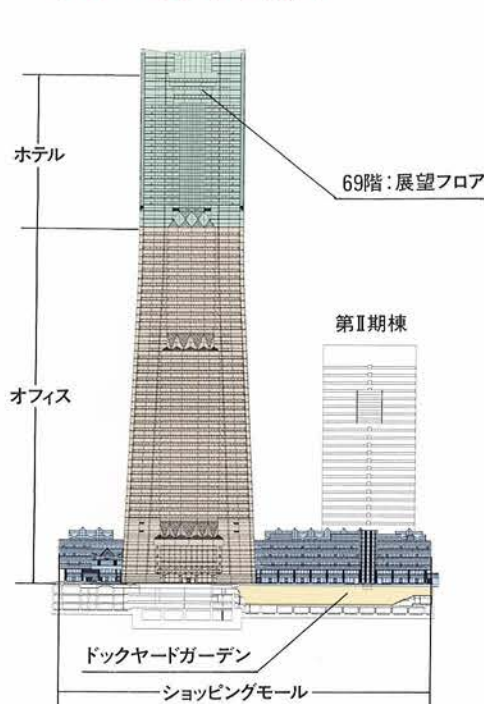
- ①みなとみらい21における業務集積具現化の第1号プロジェクトとして、同地区への将来にわたる企業集積を先導する大規模かつ先進的なオフィスづくりをめざす。
- ②桜木町駅から横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に至る歩行者専用動線「クィーン軸」の始点に位置し、街の結節点となる街区として、業務施設を中心としながらもにぎわいを創出する商業施設やみなとみらい21がめざすコンベンション機能集積の一翼を担うホテルを併設した均衡のとれた複合開発をめざす。
- ③みなとみらい21がめざす潤いのある都市環境を創出するため、水と緑を取り込んだウォーターフロント環境の形成に配慮するとともに、敷地に残る三菱重工業跡旧横浜造船所第2号ドックを保全活用する。

上記基本骨格をプランとしてまとめるにあたっては、更に以下の2点に配慮しています。

- ①数多くの東京湾岸プロジェクトの中で、みなとみらい21のポジショニングを踏まえ、地区全体のスケールや先進性を表現するプランとする。

- ②国際的にも評価の得られるプランとする。
- 以上の整理のもとに昭和63年（1988）1月に発表した基本構想が、日本一高いタワー棟を中心とするオフィス、ホテル、ショッピングモールの大規模複合開発プランです。地上70階建、高さ296m。ランドマークタワーはオフィス、ホテル、ショッピングモールを核に、展望フロアや多目的ホール、さらには石づくりのドックを復元活用した広場など、多彩な施設を併設し、魅力ある一つの街を形成します。

ランドマークタワー立面図



25街区配置図



建築概要（第Ⅰ期）

- 所在地 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号
- 敷地面積 38,061.51㎡
- 建築規模 タワー棟/地下3階 地上70階
塔屋3階（最高高さ296m）
プラザ棟/地下4階 地上5階
一部7階
- 構造 鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造
（一部鉄筋コンクリート造）
- 主要施設 オフィス、ホテル「横浜ロイヤルパークホテルニッコー」、ショッピングモール「ランドマークプラザ」、石づくりドック「ドックヤードガーデン」、展望フロア「スカイガーデン」、多目的ホール「ランドマークホール」、フィットネス施設、「リーヴ・ルネサンス横浜ランドマークプラザ」、駐車場
- 建築面積 23,208㎡
- 延床面積 392,885㎡
（内訳） オフィス/約166,000㎡
ホテル/約83,000㎡
ショッピングモール/約74,000㎡
駐車場/約60,000㎡
（駐車台数約1,400台）
その他/約10,000㎡
- 建築主 三菱地所株式会社
- 基本構想及びデザインコンサルタント ヒュー・スタビンス氏及びザ・スタビンス・アソシエイツ（米国）
/（Mr. Hugh Stubbins and The Stubbins Associates, Inc.）
- 設計・監理 三菱地所株式会社
- 工期 着工/1990（平成2）年3月20日
竣工/1993（平成5）年7月14日
- その他 上記建物（第Ⅰ期）に加え、高層オフィス棟（第Ⅱ期棟）を建設の予定

25街区の開発経緯

- 昭和58（1983）年3月/三菱地所は、三菱重工業跡より造船所跡地31haの内、20haを買収、民間最大の地権者として「みなとみらい21」に参画。25街区開発計画の検討を開始。
- 昭和63（1988）年1月/25街区の開発基本構想を発表。
- 平成元（1989）年4月/三菱重工業跡旧横浜造船所第2号ドックが「横浜市認定歴史的建造物」に認定、保全活用計画を発表。
- 同年7月/展望フロアの設置計画を発表。
- 同年12月/三菱重工業跡旧横浜造船所第2号ドックの保全活用調査を開始。
- 平成2（1990）年1月/25街区特定街区決定告示。
- 同年3月/「25街区ランドマークタワー」（仮称）新築工事着工。
- 平成3（1991）年3月/横浜ロイヤルパークホテル設立。
- 同年10月/三菱地所ビルマネジメント横浜（株）設立。
- 同年11月/正式名称を「横浜ランドマークタワー」に決定。
- 平成5（1993）年3月/メックパーキング横浜（株）設立。
- 同年7月/ランドマークタワー竣工。

21世紀をリードする、 活気あふれるビジネス環境を実現。



オフィスロビー(タワー3階)

安全性、快適性、経済性、利便性、そして創造性。
 さまざまな角度から検討を重ねた総合的な
 ビジネス環境をご提案します。

みなとみらい21における最初の大規模なオフィス施設として、同地区への
 業務集積を促進する先導役、それがランドマークタワーです。
 オフィスフロアはタワー1階から48階に位置し、ゆとりある空間や先進機
 能の装備はもとより、企業の活動やオフィスワーカーの生活をハード・
 ソフトの両面からサポートするさまざまな施設、サービスを備えています。
 単に空間を提供していた第1世代のオフィス。次に現れた、多様な機
 能を装備した第2世代のオフィス。ランドマークタワーはそうした機能
 の装備を追求したインテリジェントビルを越え、ここを舞台とする企業や
 オフィスワーカーがいきいきと活動できる、潤いのある総合的なビジネス
 環境の創出をめざしています。



エレベーターホール&キーボックス(タワー20階)



オフィス室内(タワー20階)



ビジネスサポートフロア デジションルーム(タワー25階)



給湯室(タワー20階)

より豊かな生活のための「NEXT STANDARD」を 提案する、ランドマークプラザ。



ランドマークプラザ内観

クィーン軸のにぎわいを演出する、都市型商業施設。

延床面積約7万4千㎡の都市型商業施設「ランドマークプラザ」は、桜木町駅からパシフィコ横浜に至る歩行者専用動線「クィーン軸」の一部を形成し、にぎわいを創出します。市内および近郊都市生活者の買い回り品需要へ対応するとともに、周辺環境やランドマークタワーの話題性から広域にわたる集客が期待されます。

長期的な視点に立ち、魅力ある生活文化を提案。

時代は大きな変革期を迎え、商業においても一時的な流行にとらわれない、より長期的な視点に立った施設づくりが求められています。ランドマークプラザは、自分らしさの表現とより豊かなライフスタイルを求める生活者のための空間として、魅力ある生活文化を提案。『NEXT STANDARD』(次代の指標、規範)を提案していくことを基本理念に、ファッション、アート、カルチャーなど、さまざまな情報を収集発信し、新しいライフスタイル創造を支援していきます。



フェスティバルスクエア(プラザ1階)

全長200m、5層吹抜け。

本格的ガレリア式のショッピングモール。

全長200m、5層吹抜け、本格的なガレリア式のショッピングモール、ランドマークプラザ。その内部はヨーロッパの広場を思わせる「ガーデンスクエア」と、カジュアルなにぎわいのある「フェスティバルスクエア」という2つの壮大なアトリウムを中心に構成されます。アトリウムを囲む5層の歩廊沿いには190の専門店が軒を並べ、各々の店舗が独自の顔(＝ファサード)を持つことにより「まち」としてのにぎわいを創出しています。また、ガラス天井からは陽光が降りそそぎ椰子の緑や、水の流れが屋外的開放感を演出します。各ショップは独自の世界観を十分に表現できるようフルライン編集の品揃えを基本とし、専門店ならではのサービスを提供します。

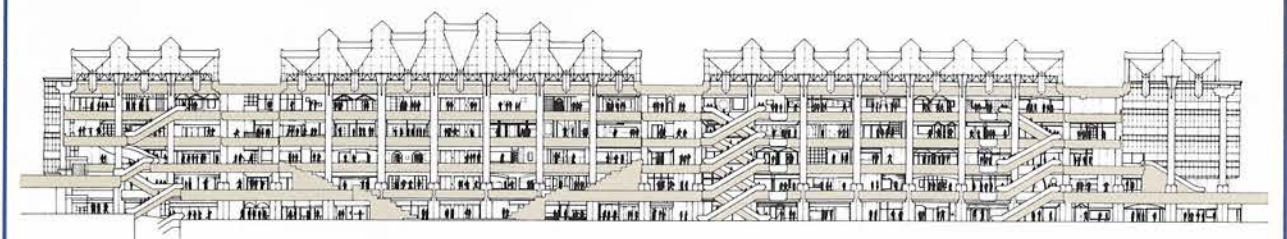


自然光を取り入れるランドマークプラザ天井

〈ランドマークプラザ各階のゾーニング〉

- 5階 ● カルチャー系雑貨ショップ・スーベニアショップ・スポーツクラブ・書籍/文具/眼鏡ショップ及び本格的レストランゾーン
- 4階 ● インポート中心のエレガンスファッション・生活提案型雑貨・キッズゾーン
- 3階 ● 横浜発のオリジナルショップ・新しいスタイルを提案するレディースファッション&グッズ
- 2階 ● カジュアルファッション・大型雑貨ショップ
- 1階 ● プレステージ性の高いホテルアーケード型ショップ・カジュアルレストランゾーン
- 地下1・2階 ● 石づくりドックに面したレストランゾーン

ランドマークプラザ立面図



国際都市横浜をサポートする、 横浜ロイヤルパークホテル ニッコー。



ホテルロビー(タワー1階)



モデルツインルーム



スカイラウンジ「シリウス」(タワー70階)



大宴会場「鳳翔」(宴会棟3階)



バンケットロビー(宴会棟1階)

みなとみらい21で繰り上げられる
 さまざまな活動をサポートする、国際級シティホテルです。

横浜ロイヤルパークホテルニッコーは、都市機能の中核施設として25街区全体の魅力を高めるとともに、みなとみらい21の街づくりやイメージ形成への貢献をめざした、国際級シティホテルです。ビジネス、コンベンション、イベントなど、この街で繰り上げられる都市活動を24時間サポートするとともに、潤いを与え、国際都市横浜の一層の活性化を図ります。その魅力づくりに、まず比類なき眺望を確保するため、客室やレストランなどの施設を建物高層部に配置。タワー1階にエントランスロビーを、そして52階から67階まで603の客室すべてが日本で最も高い210m以上に位置しています。客室の窓からは横浜市内、東京湾岸エリアはもとより、遠くは伊豆半島や富士山まで関東一円を望むことができます。居住性を追求し、ゆったりとした広さを確保したインターナショナルサイズの客室は、洗練されたインテリアに包まれたくつろぎの空間。インテリアデザインは米国ウィルソン・アンド・アソシエイツと三菱地所の手によるものです。世界を舞台に活躍する人々にふさわしいやすらぎのステージとして、真心をこめたサービスでおもてなしいたします。



ホテル客室からの眺望

横浜市内最大級のバンケットホールなど、
 多彩な施設をご用意。

大宴会場(最大2,000名収容/ホワイエ含む)は、横浜市内でも最大級のスケール。バンケットロビーを宴会棟1階に設け、宿泊専用のエントランスロビーと2つの顔でお客様をお迎えいたします。そのほか大小12の宴会場や地上70階のスカイラウンジをはじめとする9つのレストラン、バー、チャペルなども充実。さらに地上200mという超高層からの眺望が楽しめるプールやサロン機能を備えた会員制の「ランドマークフィットネスクラブ」(49階・50階)が真のクラブライフを提供します。ホテルの経営・運営には、三菱地所90%と日本航空開発㈱10%の出資による、株式会社横浜ロイヤルパークホテルがあたります。

総合ディベロッパー、三菱地所のホテル展開。

三菱地所は昭和58(1983)年に「名古屋第一ホテル」を開業して以来、「厚木ロイヤルパークホテル」、「岡山国際ホテル」、「ロイヤルパークホテル」、「仙台ロイヤルパークホテル」といったシティホテルをはじめ、昭和62(1987)年には「リゾートパークホテルオニコウベ」を開業し、リゾートホテル事業を開始。これからも、全国的にホテル事業の展開を推進していきます。



ロイヤルパークホテル(東京・箱崎)

多彩なコミュニティ・スペース。



ランドマークホール(プラザ5階)

横浜の新しい情報発信基地、ランドマークホール。

25街区の文化、ビジネス、商業など、多領域にわたる情報発信基地として設置された、「ランドマークホール」。街区の活性化とともに、みなとみらい21の都市文化創造の一翼を担います。音楽、演劇、展示など、多目的な利用を想定し、スタイルに応じてフレキシブルな対応ができるように設計。高度な演出に対応する照明や音響システムを整え、ロビーやホワイエなどの充実も図りました。「発掘・支援・育成・選択・創造」をキーワードに、ジャンルにとらわれない国内外の質の高い芸術文化を、ホール独自の企画により紹介するとともに、企業のPRイベントや各種展示会などのビジネスユースも可能な貸ホールとして、文化とビジネスの情報発信基地の役割を果たします。プラザ5階の一角に位置しており、ホール面積は450㎡で、約180～500名を収容。開演前などにゆったりとした時間を過ごせるホワイエも備えた、多目的なホール空間です。



ドックヤードガーデン

歴史的資産を未来へ。ドックヤードガーデン。

日本の産業史、横浜の都市形成史を語る上で欠かせない三菱重工業(株)横浜造船所第2号ドック。明治29(1896)年に竣工した、現存する石づくりの商船用ドックとしては最古のものです。近代土木建築史の成果としても評価が高く、横浜市より歴史的建造物の認定も受けています。このドックを解体、復元し、来街者の憩いの広場として活用。「ドックヤードガーデン」として生まれ変わりました。長さ約100m、上部幅約30m、深さ約10m。単なる歴史遺産ではなく、形態上の特色を空間の魅力として活かし、パフォーマンスやイベント、展示会など、新しい都市活動の舞台として活用しています。

平成9(1997)年12月、国重要文化財に指定されました。



ホワイエ



ランドマークスタジオ



第2号ドック(昭和48年撮影)



ドックヤードガーデン内観



スカイガーデン(タワー69階)

日本一高い展望フロア、スカイガーデン。

みなとみらい21の街としてのにぎわいを創出する施設の一つ、「スカイガーデン」を設置しました。高さ273m、地上69階に位置する日本一高い展望フロアのスカイガーデンへは、2階ロビーから世界最高速のエレベーターに乗り約40秒(分速750m)で到着。視界360度、前方約80kmまで見渡せ、眼下にはベイブリッジと横浜港、遠くは東京都心部や房総、三浦、伊豆の各半島、富士山、秩父連山など関東平野一円の雄大なパノラマが広がります。

ランドマークタワーオリジナルグッズを開発・販売、タワーショップ。

スカイガーデンのエレベーター出口、プラザ5階にランドマークタワーオリジナル商品を扱う「タワーショップ」を開設。「買う、遊ぶ、学ぶ」を基本コンセプトにランドマークタワー独自のキャラクター商品を開発し、素敵なお土産を贈ります。



タワーショップ(プラザ5階)



ランドマークタワーオリジナルグッズ



開閉自在の屋根を持つプール(プラザ6階)

オフィスワーカーをサポートする、リーヴ・ルネサンス横浜ランドマークプラザ。

都市機能が高度化、複雑化するほど、人の心と体には健康が重要視されます。そこでオフィスワーカーの心身リフレッシュ、健康づくりを積極的にサポートするフィットネスクラブとして、プラザ5階にリーヴ・ルネサンス横浜ランドマークプラザを設置しました。インテリアに海のイメージを取り入れ、都会の中のリゾート感覚を演出。天気により開閉自在のアーチ型屋根の下には本格的な競泳プールを設け、さらにプールサイドにはテラスやジャグジーもあり、リゾート気分を盛り上げます。その他、トレーニングジム、エアロビクススタジオ、サウナなど、都市型のスポーツクラブ施設を備えています。オフィスワーカーをはじめ誰もが気軽に楽しめ、爽やかなスポーツシーンが広がります。

三菱地所は、平成3(1991)年に「株式会社リーヴ・スポーツ」を設立。大手町、有楽町、名古屋広小路、金沢、赤坂、そして横浜でフィットネス事業を展開しています。



エントランスロビー(プラザ5階)



トレーニングジム(プラザ5階)



地上70階、高さ296mを 実現した、設計特色。

この街の、シンボルであるために。

高さ296m、延床面積392,885㎡。日本一の超高層ビル、ランドマークタワー。みなとみらい21全体のスカイラインの頂点を形成するとともに、21世紀のシンボルにふさわしい機能と形態を兼ね備えた垂直型の複合ビルです。設計は三菱地所による計画骨子をベースに、米国の建築家ヒュー・スタビンズ氏よりデザイン・コンセプトの提案を受け、さらに三菱地所が基本設計・実施設計を進めるという共同作業で行われました。そのデザインは、“ランドマーク”として他に類例のない特徴ある外観とするとともに、東洋文化、日本文化、横浜の歴史・特性を尊重しながら、全体として優雅でダイナミックなプロポーションを実現しています。

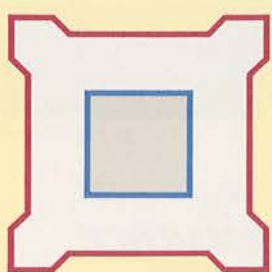
耐風性を重視した設計。

建物は高さが増すにつれ、揺れの周期(固有周期)は長くなります。周期が長くなると、地震荷重は低下し、逆に風荷重が増加する傾向にあります。その結果、従来の超高層ビルでは構造上耐震を主体として設計がなされていたのに対し、ランドマークタワーは日本一の高さから、風荷重で構造が決まった日本初の超高層建築になりました。その設計に基づき

①風により大きな力を受ける建物隅角部の柱の一部(42階以下)に、強度の高い高張力極厚鋼材「SM570Q材」(通常の1.3倍)を使用。板厚は最大100mm、使用量は約6000tと、超高層建築では最大の規模となっています。

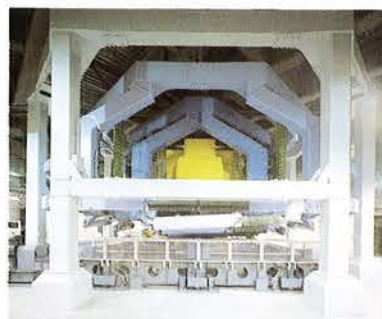
②構造骨組には、風荷重による全体曲げに対して有利な二重チューブ構造を採用し、さらに建物隅角部が下層に向かって広がる安定した架構形状としています。

中層部平面図



赤線：外側チューブ 青線：内側チューブ

③また、ランドマークタワーの基礎部分は頑強な土丹層。そこに直接、基礎マット部を設置し、打ち過ぎなしでマスコンクリートを打設。面積は5,350㎡、深さ5m、使用されたコンクリート量は2万6千㎡以上です。以上のような安全性を実現する構造設計に加え、快適性を追求するために、④建物の揺れを軽減する、国内最大規模、新機構による制振装置を採用。タワー上部にあるホテルの快適性を追求するため、塔屋1階(地上71階)に2基設置。170tの移動質量(おもり)が特殊な振り子によって吊られて制振効果を発揮します。さらにコンピューターでコントロールするアクティブ方式により、揺れを約35~40%まで軽減する大きな制振効果を実現しています。



制振装置

40ヶ月で完成した、 ランドマークタワーの 施工上の特徴。

3フロアを1単位に、鉄骨建方や外装などの工事を時間差で施工する積層工法を採用。さらに揚重には日本最大級、1500t・mのタワークレーン4基を使用するなど、効率性の高い工法を採用し、40ヶ月で完成しました。



ランドマークタワーを支える、 技術とシステム。

24時間体制の防災センター。

各種防災機器の作動状況の確認やビル内各所に設置したITVによる建物内の状況確認など全館を一括集中管理します。



管理ポイントは約7万点、 コントロールセンター。

ビルオートメーションで全館を一元管理するコントロールセンター。その管理ポイントは約7万点にも及びます。



効率的で衛生的な、 真空集塵システム。

オフィス階の各フロアにダストシュートを設け、口径150mmと500mmのパイプを通じてゴミを一ヶ所に集めて破砕。ゴミを効率的、衛生的に収集するシステムです。

緊急時、ヘリコプターの離着陸が可能。 屋上に確保された、非常用ヘリポート。



新たに開発された、 自動ゴンドラ窓拭システム。

外壁の特殊フォルムに対応しながら無人ゴンドラが全長約33kmのガイドレールを横行して、窓を清掃します。



水資源を有効に活用する、 中水道システム。

ランドマークタワーにおける雑排水や厨房排水を中水道システムで再利用。オフィスのトイレの洗浄水に使用し、水資源を有効活用しています。

駐車場を管理する 車輦ナンバー認識システム。

登録された車輦ナンバーを自動的に認識するシステムを導入。快適でスムーズな駐車場利用を可能にしました。オフィスやホテル、ショッピングモールなど、複数施設をサポートする駐車場として、スピーディな対応を実現しています。



ランドマークタワーの運営・管理・サービス。

街のにぎわいも創造する、
 三菱地所ビルマネジメント横浜株式会社。

ランドマークタワーは、大規模なオフィス、ショッピングモール、ホテルに加え、展望フロア、多目的ホール、ドックヤードガーデンなど、多彩な施設が集積して、ひとつの「街」を形成しています。三菱地所はこの街で繰り広げられるさまざまな都市活動を支援するため、次の5つの視点に立ったバランスのとれた「街の運営・管理」をめざしています。

①セキュリティ(Security)

「丸の内ビジネスセンター」での実績を活かし、高度なシステムと熟練したスタッフによる質の高い管理を実現し、安全で安心感に包まれた環境を提供します。

②アメニティ(Amenity)

きめ細かな清掃、植栽の手入れなど、クリーンで美しい空間を創出、維持し、常に快適な環境を提供します。

③ホスピタリティ(Hospitality)

暖かいもてなしの気持ちを基本に、誰にも開かれた街として、訪れる人々にサービスを提供しています。

④フレキシビリティ(Flexibility)

24時間都市ランドマークタワーの、多種多様なニーズへ柔軟に、きめ細やかに対応します。

⑤クリエイティビティ(Creativity)

都市としての楽しさと心地よい刺激をテーマに、イベントなどのにぎわいを演出します。

以上、5つの視点に立ってさまざまなニーズに機動的、効率的に対応するため、平成3(1991)年、「三菱地所ビルマネジメント横浜株式会社」を設立。オフィスやショッピングモールの運営・管理・サービス、ビル内の情報通信サービス、展望フロアなどの施設を運営。また、多目的ホールやドックヤードガーデンなどで開催するイベントの企画など、ソフト面のプロデュースを実施。さらにビジネスサポートフロアの運営・管理による業務支援事業を展開するなど、21世紀にふさわしい都市をハードとソフトの両面から創造していきます。

ビルマネジメントシステムを導入。

多様な施設が複合するランドマークタワーを一体的に運営・管理する、ビルマネジメントシステムを開発し導入。ビルオートメーションシステムとの連携を実現し、インフォメーションターミナルによる空調や会議室の予約、店舗での売上金管理などの自動化を図っています。

約1,400台収容の駐車場を管理する、 メックパーキング横浜株式会社。

ランドマークタワーは多種多様な施設が複合しているため、その共用スペースである駐車場(地下1~3階)の管理にはきめ細やかなサービスと、スピーディな対応が求められます。そこで、メックパーキング横浜株式会社を設立。約1,400台(第1期)を収容する駐車場を最新のシステムを導入し、管理しています。

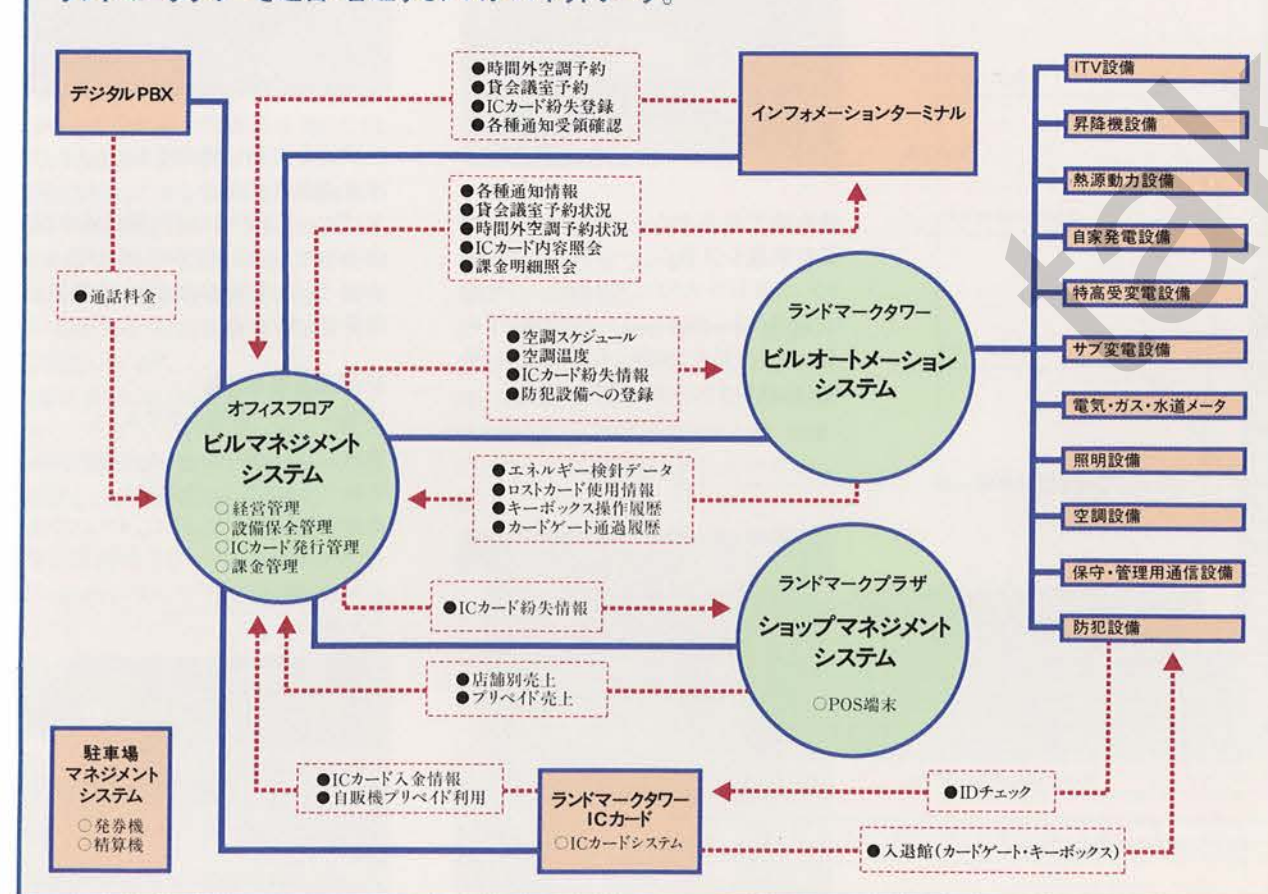
ランドマークタワーのシンボルマーク

25街区が「一つの街」としてにぎわい、活性化していくことを願い、各施設共通のモチーフにより、シンボルマークの開発を行いました。モチーフとなる「旗(フラッグ)」は、訪れる人々を歓迎し、応援する意を象徴し、「風に舞う」その形状はこの街が新時代のシンボルとして躍動する姿を表現しています。



ランドマークタワー全体を代表する、基本のシンボルマーク。
 2色の組み合わせは「海から誕生した生命」の色です。

ランドマークタワーを運営・管理するシステムネットワーク。



会社概要

- 社名 三菱地所株式会社
- 英文社名 MITSUBISHI ESTATE CO., LTD.
- 本店所在地 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号
- 電話番号 03-3287-5100(受付案内台)
- 設立 昭和12年5月7日
- 営業種目 ビルディングの経営
 住宅、マンション等の建設、分譲
 住宅用地、工業用地等の造成、分譲
 観光・娯楽施設の管理、運営
 ホテル、レストランの経営
 索道事業の経営
 建築、土木の設計監理、請負
 港湾、河川等の浚渫、埋立
 不動産の売買、仲介、鑑定

関連会社

- | | |
|---|--|
| <p>[三菱地所ビルマネジメント横浜株式会社]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本店所在地 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号 ●電話番号 045-224-2244(代) ●設立 平成3年10月1日 ●事業内容 みなとみらい地区を中心に三菱地所が所有するビルの運営・管理・サービス事業 | <p>[メックパーキング横浜株式会社]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本店所在地 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号 ●電話番号 045-224-2266(代) ●設立 平成5年3月2日 ●事業内容 ランドマークタワー内駐車場の管理業務 |
| <p>[株式会社横浜ロイヤルパークホテル]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本店所在地 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号 ●電話番号 045-221-1111(代) ●設立 平成3年3月7日 ●事業内容 「横浜ロイヤルパークホテル ニッコー」の経営、運営 | |

当物件の募集状況についてのお問い合わせは[こちら](#)まで

takeoffice

テイクオフィス株式会社

東京都中央区築地 1-9-12

TEL:03-6278-7711

URL:<https://www.take-office.co.jp/>